

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 岐阜県加茂郡白川町教育委員会
2. 研究主題 : 調査研究Ⅱ
3. 研究タイトル : 小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化
4. 研究課題 : 小集団学級で不足する意見交流を充実させる観点から、タブレットPCを校区の小学校高学年と中学生全員に整備し、自らの考えを相手に見せたり、学級全体で発表したりするツールとしての活用方法を研究する。
また、自らの言語表現や動作、演技などを客観的に見ることで、より早く、技能を習得するツールとしての活用方法を研究する。
5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

小規模校化する中で、社会性が育ちにくいなどの理由から、学校の統廃合問題が議論され始めている。本町は第五次総合計画において、当面、学校を統合しないで現体制を維持するとした。教育委員会はそれに従って、統廃合しないことによるデメリットを改善する知恵を出す必要に迫られている。ICTは、少人数であっても、多メディア情報の収集が可能になる。また、ICTを活用して、映像提示や文章推敲などが容易で、少人数でも豊かなコミュニケーション活動が生じ、ツールとしての活用幅が広がる。少人数でも、コミュニケーション活動を広げ、充実させることができる。

そこで、隣接する佐見小の高学年児童全員と佐見中学生徒全員にタブレットPCを一人1台持たせて、個別学習や協同学習での活用のあり方や自己表現力の育成について研究する。これは小規模校のメリットである教材・教具の整備のしやすさを生かしたものである。県内外で同様の悩みを抱えている学校の参考になると考える。

タブレットPCを活用した教育は、学校の規模に関わりなく可能であるが、大人数の児童生徒のいる学級では、リテラシー指導が大変で、授業者はそれに手間取る。小規模校では、リテラシー指導を行いながらも、授業のねらいに即した指導が可能となり、教育の高度化が期待できる。

(2) 調査研究の実施状況（平成28年度）

4月	中学校に新1年生が入学してくることに伴い、新1年生に対して、タブレットPCの貸与式を行い、すべての生徒に対して、昨年度、生徒会が作った使用上の約束を確認した。
5月	中学校3年生の修学旅行において、事前学習に活用し、旅行当日もグループ1台を持って行き、レンタルするモバイルルーターとともに、テレビ電話としての活用や調べ学習、それらの記録写真の保管を通して、修学旅行の記録制作を試みた。佐見小中タブレットPC活用検討会議の外部指導者が出席する研修会において、事例を発表し、助言を受けた。 小学校5・6年生においても、海研修に向けて干潟の水生物や日間賀島についての事前調べ学習でタブレットを活用した。また、当日の活動記録を動画や静止画で行い、研修後の全校集会における報告プレゼンテーション発表につなげた。
6月	中学校1年生の名古屋研修において、事前の調べ学習に活用し、旅行当日もグループ1台を持って行き、レンタルするモバイルルーターとともに、テレビ電話としての活用や調べ学習、それらの記録写真の保管を通して、名古屋研修の記録制作を試みた。佐見小中タブレットPC活用検討会議の外部指導者が出席する研修会において、事例を発表し、助言を受けた。 小学校校内研究会において、3・4年生の体育の授業研究を通して、運動の様子を動画で提示して本時めざす姿を捉えさせる効果的な導入や自分たちの運動の様子を動画で撮影しながら確かめたりアドバイスしたりする協同学習のあり方について研究を行った。

7月	佐見中学校内での授業交流会において、タブレットPCを活用した授業を公開した。県教育委員会の指導主事等から指導を受け、校内で検討し、よりよい授業づくりを目指した。夏季中学校体育大会に向けて、タブレットPCを活用し、技術向上に生かした。
8月	佐見中学校体育館に無線LANのアクセスポイントを設置し、インターネット接続を可能にした。佐見小中タブレットPC活用検討会議の外部指導者が出席する研修会において、事例を発表し、助言を受けた。
9月	小中学校合同運動会を通して、小中学校ともに、技術の向上や記録の保管などにタブレットPCを活用した。効果のあった方法について、ホームページにて公開した。佐見小中タブレットPC活用検討会議の外部指導者が出席する研修会において、事例を発表し、助言を受けた。
10月	10月23日（日）の学校公開日で、地域の講座の一部に、中学生が行う「タブレットPC教室」の企画をし、地域の方の好評を得た。また、「タブレットPCや電子黒板等を活用した数学の授業」を公開し、両方を合わせて25名の参観者に見てもらった。この中には、佐見小中タブレットPC活用検討会議の外部指導者も含まれる。 10月26日の白川町教育委員会指定の研究公表会を通して、3・4年生の体育の授業公開を行い、タブレットPCの効果的活用と協同学習のあり方について研究会を行った。また、6年生の算数や他の学年においても画像提示等でタブレットPCを活用した授業を公開した。
11月	中学生が行う「タブレットPC教室」の参加者を対象にアンケートを実施し、次年度に生かせるように話し合いをもった。
12月	小中で、タブレットPCの活用に関わるアンケートを実施し、児童生徒のタブレットPCの活用に対する意識調査を行った。
1月	タブレットPCの研究の成果を、冊子としてまとめるため、小中の実践を振り返り、原稿としてまとめる。同時に、次年度の実践の方向を検討し始める。佐見小中タブレットPC活用検討会議の外部指導者が出席する研修会において、事例を発表し、助言を受けた。外部指導者から、この1年間の実践について、文書にて報告を受けた。
2月	佐見小中タブレットPC活用検討会議の外部指導者の意見を参考に、今後の研究の見通しについて、教育委員会とともに検討した。佐見小中タブレットPC活用検討会議の外部指導者が出席する研修会において、事例を発表し、助言を受けた。
3月	本年度の成果を振り返り、次年度の計画に加除修正をする。

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

10月23日（日）の学校公開日で、地域の講座の一部に、中学生が行う「タブレットPC教室」の企画をし、地域の方の好評を得た。また、「タブレットPCや電子黒板等を活用した数学の授業」を公開し、両方合わせて25名の参観者に見てもらった。
加茂郡実践記録に、中学校が論文を提出した。これには、導入状況から、成果や課題を見直し、今後に生かそうとするものである。
小学校においては、協同学習を軸にした授業のユニバーサルデザイン化の研究を通して、導入や課題追究場面におけるタブレットPCの効果的な活用について実践を深めることができた。また、活動の様子を撮影した画像や動画を活用して、内容をまとめてわかりやすく情報発信したり、そのためのアプリの活用に関するリテラシーを高めることができた。

(2) 成果物等

・タブレットPCのツールとしての活用<ユニバーサルデザインの授業づくり>

(3) 今後の取組予定

佐見ふれあいセンターにおいて行う、「タブレットPCの講座」は、今後も中学生が担当し、地域の人たちに、その活用を教える活動を通して、社会性を育成し、中学卒業後も地域を担う人材として堂々と生き抜く生徒を育てる。

平成30年度（実践の4年目）に、本校は「東海北陸へき地複式校の発表校」になることが決定している。そこで、タブレットPCを1つの道具として活用して学習を進める生徒の姿を発表する。

小学校では、岐阜県教育委員会が29年度から運用をスタートさせる教科WEB学習システムをタブレットPCを活用して利用することを通して、算数の学習内容の理解や定着度を向上させる実践に取り組む。